

五ヶ瀬川 水質良好

8年連続 全国トップクラス

国交省 水質が最も良好な河川

国土交通省は1日、全国の1級河川159河川のうち、同省が直轄管理する区間の2020年水質現況について、五ヶ瀬川など18河川が「水質が最も良好な河川」に判定されたと発表した。五ヶ瀬川は8年連続の選出。全国トップクラスの水質を保持し、「清流」にふさわしい結果となった。

調査は1958年から1級河川を対象に実施。河川の水質を表す一般的な指標のBOD（生物学的酸素要求量）を1年間測定し、平均値を河川ごとに集計して水の「きれいさ」を判定している。五ヶ瀬川水系は三輪（五ヶ瀬川）、松山橋（同）、大瀬橋（大瀬川）、中州合流点（祝子川）、白石（北川の5地点で月に1回、BODを測定。その結果、全調査地点の年平均値などで基準を満たした。経年的に見て水質は改善傾向にあり、近年は良好な状態を保っている。良好な水質は、同省延岡河川国道事務所が行っている水生生物調査でも証明された。昨年は小学生が91人参加し、大瀬橋（大瀬川）、小川・永代橋（北川）の2カ所を実施。カワゲラ類、ナガレトビケラ類、ヒラタカゲロウ類などが確認され、両地点とも「きれいな水」と

判定された。良好な水質が証明された18河川のうち、九州は五ヶ瀬川のほか、小丸川水系小丸川、球磨川水系川辺川（熊本）の3河川が選ばれた。川辺川は15年連続の選出。

【BOD】水質汚濁を示す代表的な指標。水質関係の各種法令で規制項目として採用されている。水中の汚濁物質が、水温20度で5日間のうちに、微生物によって酸化分解される過程で消費される酸素量を示す。数値が低いほど良好な水質であることを表す。